

第6回東広島市総合計画審議会会議録

日時:令和7年1月7日(火)16:00~17:30

場所:東広島市役所本館8階 全員協議会室

1 開会

(事務局)

本日はお忙しい中ご出席いただき御礼申し上げます。ただ今より「第6回東広島市総合計画審議会」を開会する。

東広島市総務部政策推進監マネージャーの谷川である。よろしくお願い申し上げます。

本会は東広島市総合計画審議会運営規則第2条により、原則公開で行うこととなっているが、公開することに対し異議はないか。

(異議なし)

それでは、傍聴者の方には適時入室いただく。

本審議会は同じく運営規程により、会議録を作成し、公開することとしているため、会議の録音及び会議録の公開について、ご了承いただくようお願い申し上げます。

なお、本日は阿部委員、ジョン委員、柘屋委員、志村委員におかれましては、所用のため、欠席となっているのでご了承いただきたい。樹野副会長は遅れて参加予定である。

それでは、議事に入る。東広島市総合計画審議会規則第4条第2項の規定により、会務は会長が総理することとなっているため、ここからの議事の進行は、田中会長に議長を務めていただく。

2 議事

(1)総合計画に関するパブリックコメントへの対応について

(2)総合計画審議会の開催経過

(3)答申案について

(田中会長)

本日の議事は3件を予定している。まずは総合計画に関するパブリックコメントへの対応、総合計画審議会の開催経過について、事務局から説明をいただく。

(事務局)

議事(1)総合計画に関するパブリックコメントへの対応について、説明させていただく。パブリックコメントの募集期間は、令和6年11月19日から12月19日までであり、全部で14件、個人から12件、団体から2件の提出があった。意見項目数は39項目あり、計画全体に係るものが6件、序章に係るものが1件、5づくりの施策に係るものが29件、地域別計画に関するものが3件という内訳であった。なお、そのうち計画書の修正を行ったものは2件である。39項目の意見及びその対応は資料2の通り、まとめている。主な意見について説明させていただく。

計画全般に関するものは、前期計画の検証に係るものや計画書の分量、Well-being指標の目標設定などについての意見があり、検証の状況や概要版を作成する旨、Well-being指標は市民の幸福度向上を分析するために着目する旨を記載した。

仕事づくりの項目では、企業投資、企業誘致に係る意見や、有害鳥獣対策、市営レンタルサイクルの提案、大学生の地元就職などについての意見があり、投資促進のための人材の育成確保や地域と連携した有害鳥獣対策、レンタルサイクルの検討、大学や地元企業との連携等を記載した。

暮らしづくりの項目では自転車道の整備、高速バスの運行、渋滞対策などについての意見があり、歩行者及び自転車利用者が安全・安心に通行できる環境整備や持続的な公共交通のネットワーク構築、渋滞状況を把握し順次対策を進める旨を記載した。

人づくりの項目では、乳幼児期における保育での「乳幼児期に育みたい力」の定義についてご意見をいただき、計画書にその定義を明記する修正を加えた。その他の意見としては、教職員の力量アップや不登校児童生徒への対応、プレハブ校舎の解消や ICT

教育についての意見があり、教員の伴走支援や不登校児童の実態に応じ、医療福祉と連携した対策をする旨、必要に応じた校舎の増築改修等によるプレハブ校舎の解消、ICT教育の活用法について記載した。

活力づくりの項目につきましては、土地利用の規制や公共交通、電動スクーターの利用促進、オープンデータ、ポータルサイトの活用に関するご意見をいただき、土地利用の考え方や公共交通網の強化、利用状況やニーズを踏まえた電動スクーター普及の検討、ポータルサイトの分野分けの状況について記載した。なお、オープンデータの活用については、HP等でデータを公開しているところだが、後期計画期間においても取組みを促進していくことから、計画書の修正追加をしている。SNS犯罪への対応、育休退園制度の見直し、保育士の処遇改善などのご意見をいただき、警察等と連携した犯罪の抑止、保育士の確保に向けた状況について記載した。

地域別計画では、太陽光発電の設置のあり方や廃校施設を利用したスポーツ振興、地域の魅力発信についての意見をいただき、景観に配慮した条例制定の検討や、いただいた意見を廃校施設の活用や地域の魅力発信の取組みの参考とさせていただくことを記載した。

ご説明した総合計画の修正箇所は資料3「総合計画新旧対照」に記載している。なお、資料1及び資料2については1月中旬ごろにホームページで公開するとともに、意見提出者へ回答結果を送付する予定である。

続いて、議事(2)総合計画審議会の開催経過について、資料4はこれまでに開催した審議会を一覧にまとめている。総合計画の冊子を作成する際に、前回の総合計画と同様に付属資料として審議会の内容を掲載することを考えており、令和6年2月5日の第1回審議会から審議会を6回、部会を延べ6回開催した内容について記載している。長期間に渡り、ご議論をいただき感謝申し上げます。

(田中会長)

今の説明に対してご意見があれば発言いただきたい。

(異議なし)

(田中会長)

特に意見がないため、次の議事“(3)答申案について”に進む。前回の審議会で、分かりやすく、まちづくり大綱ごとに記載してほしいというご意見をいただき、内容を修正した、事務局より説明してほしい。

(事務局)

答申案について説明する。資料5には前回の審議会でいただいたご意見を踏まえ、審議会での意見が伝わるよう、また部会での審議も踏まえまちづくり大綱ごとに答申の意見を記載した。また資料6に答申案としてまとめる前の、それぞれのご意見を記載しております。資料5について、1つずつ説明させていただく。

1全体事項については、現在、「モノの豊かさ」から「心の豊かさ」を求める時代になっていること、審議会の中でも一度ご説明させていただいたが、Well-being という考え方、幸せを感じられることが重要と考え、また、前回の審議会の中でもご意見をいただいた「住んでよかったと思えるまち」といったことを踏まえ、「将来都市像の実現に向けての施策の推進に当たっては、市の特徴や変化する社会情勢、技術の進歩を的確に捉え、市民一人ひとりが幸せを感じられ、住んでよかったと思えるまちとなるよう各種の取組みを行うこと。」と記載している。

2仕事づくりでは、地元の企業は多く課題を抱えているといったご意見や、子育て世代のキャリアアップや外国人市民の労働環境等、色々な人がそれぞれの望む働き方ができるようにといった意見を踏まえ、「既存地域産業が抱える課題を的確に捉えた施策を行うとともに、多様な背景やニーズを持つ人々が、それぞれの望む働き方を実現できるまちを目指すこと。」と記載している。

3暮らしづくりでは、外国人市民が増えている状況で、日本語が理解できない方への対応といったことや、既存の施策を地域の担い手不足へ結びつけるといったご意見などを踏まえ、「外国人市民のさらなる増加が見込まれている中で、言語対応や文化的多様性を考慮し、多文化共生を推進するとともに、地域全体で多様な人々を受け入れ、地域の担い手にもなるよう、全ての人が暮らしやすいまちを目指すこと。」と記載している。

4人づくりについては、不登校は悪いことではなく、その後が重要であり、色々な個性を受け入れるといったこと、その上で子育てをしやすく、子ども達が成長していく環境を作ることといったご意見を踏まえ、「子どもたちの様々な個性を尊重し、全ての子どもたちが安心して学び成長できる環境を整えること。」と記載している。

5活力づくりについては、吉川地区を拠点とし、大学との連携で軸をつくっていくなど、まちの発展、都市の整備を行う際には環境に配慮する必要があること、文化的な景観に加え、自然景観にも配慮していくことといったご意見を踏まえ、「新たな都市整備に当たっては、周辺環境に十分配慮したまちの活性化に繋がる土地利用を推進し、豊かな自然と調和した持続可能なまちを目指すこと。」と記載している。

6安心づくりについては、ヤングケアラー等の把握には地域の見守り体制が必要といったことや、医療、福祉、教育の連携が重要であるといったご意見を踏まえ、「医療、福祉、教育などの多分野の連携による包括的なサポート体制を整えるとともに、地域社会全体での理解と協力を促進し、誰もが安心して暮らせるまちを目指すこと。」と記載している。

(田中会長)

答申案について意見をいただきたい。

(柏崎委員)

人づくりの項目は主に子供たちのことが書いてあるが、生涯学習や生涯スポーツの要素も加え、市民全員が成長できる環境を整えると記載したほうが良いのではないかと。

(事務局)

人づくりの項目では子供の意見が特に多かったと認識していたため、子供を中心として答申案を作成している。スポーツ施設の不足しているのではないかと意見をいただいております、その際は適切な管理をしていく、と回答をしていた経緯があるが粒度が細かく具体的なものであったので、今回の答申案では記載していない。

(フク委員)

段取りについて確認したい。前回の審議会ではかなり細かい粒度で多数の意見について議論をしたが、その結果資料 5 にまとまっているということか。どのように反映されているのか、説明をしてほしい。

(事務局)

10月に審議会を行った後、追加意見をメールで募集をし、色々な意見を頂戴した。11月には答申案の素案を提示し、その際は包括的な書きぶりで4項目書いていた。その後審議会でもちづくり大綱毎に見えるように修正してほしいという意見を踏まえて、今回の答申案を提示している。

(田中会長)

答申案については特に修正はしたが、生涯学習についてはしっかり取り組んでほしいという意見があった旨、記録する。本審議会としては、この内容で市長に答申する。本会議をもって審議会は終了となるため、委員から一言ずつ意見・感想をいただきたい。

(フク委員)

今回の審議会は総合計画の基本計画の見直しであるため、どこまで修正するのか、どこまで審議すべきか分かりにくかった。今日の審議会での事務局からの報告では、パブリックコメントにてたくさんの意見を頂戴しているが、2つのみの反映で、パブリックコメントの実施意義が分からなかった。次回総合計画を見直す際は、審議会での議論範囲、パブリックコメントを反映の範囲など、見直しする過程・プロセスを明確化させた方が良かったと感じた。ありがとうございました。

(平川委員)

審議会を通して、市の全体の動き・今後の方向性が良く分かった。過疎地域に住んでおり、少子高齢化が課題であると感じている。少子高齢化をマイナスのイメージで捉えるのではなく、プラスの方向で今後ができるか、今後検討できれば良い。

(橋野委員)

部会で議論をすると、1つのテーマについて細かく話ができる。全体会では発言できなかったが、部会では意見が言いやすかったため、今後も部会を継続的に実施してほしい。またパブリックコメントにも書いてあったが、資料の文章が長いため、高齢者が読むには疲れてしまう。やはり市民に理解してもらおうパブリックコメントであると思うため、今後は分かりやすくしてほしい。ありがとうございました。

(西田委員)

少子高齢化・担い手不足が深刻であることを肌で感じている。パブリックコメントにもあったが、調査するだけでは解決できないと感じている。今後も部会のような形で話できれば議論が深まり、勉強になると感じた。ありがとうございました。

(陣内委員)

移住者の立場として参加している。勉強不足ではあったが、市の施策がどのようなプロセスで作られているか学ぶことが出来た。今後は地域の活動に生かしていきたい。ありがとうございました。

(島本委員)

市の計画がどのように作られるか、過程を知ることができ、勉強になった。5年後、10年後、東広島市がどのようになっているか未来を見たい。個人的には、人づくりの部会に参加した際、意見が活発に出て、色々な人と交流ができ、大変良い機会となった。ありがとうございました。

(児玉委員)

自身が住んでいる地域・業界でも少子高齢化の課題が大きくある。審議会の中では前向きな意見もあり、他業界の取組を知ることができ、大変勉強になった。5年後を見据えて、計画がより良いものになるように協力していきたい。若い委員からしっかりした意

見があり、刺激を受け、良い勉強になった。ありがとうございました。

(倉本委員)

人づくり委員会に参加した。審議会では活発な意見があり、大変勉強になった。スポーツの視点見ると総合計画の中には“体を動かす”、“健康寿命”、“クラブ活動”は組み込まれているが、“芸術”などの観点は全て“など”にまとめられてしまっている。審議会では発言しなかったが、“など”が大事だと思う。Well-Being を考えるのであれば、生涯学習がなければいけないと考える。人づくり部会で議論ができてよかった。これからの委員会は、若い人の意見を吸収してなくてはいけないため、若い人を増やしていければ良い。ありがとうございました。

(加納委員)

東広島市出身であるため、どうすれば戻って来られる故郷になるのか考えていた。東広島市は市内の中に移動を促せるキラーコンテンツがある。海や山に行こうとなった際、東広島市の中で完結できるのは、子育て世代にとって、とても魅力的である。東広島市には色々な行事があり、その行事を紡いでいこうという大人たちの気持ちを、どのように発信するのが大事だと思った。一方でハードの面で、パブリックコメントにもあったが魅力あるまちづくりという面でハード整備を求められていることを感じた。求心力がある映画館や賑わい施設は必要だと感じており、パブリックコメントの回答には民間事業者に主導で検討されるべきと記載があったが、市が牽引役になれるようなしかけを作っても良いのではと思った。また部会での意見交換は活気があって良かった。ありがとうございました。

(柏迫委員)

仕事づくり部会に参加し、自分の仕事や青年会の活動について意見をさせていただいた。日本全体の課題でもあるが人口減少が進んでいく中で、どのようにまちづくりを行っていくのか、課題があると実感した。東広島市の中で新たな課題として感じたのは、これまでは大学生が入ってきて市外に流出するのを止めなければならない、という課題を

認識していたが、大学生が流出後、東広島市に戻ってくる際に受け皿となる仕事をつくるという課題が重要であると認識した。答申案については全てのものを包括的に配慮しなくてはいけないので、特定の事項に結び付けにくいのが、参加者の専門性が異なっているため、部会の中での意見の出し合いが良い審議会の進め方となると感じた。また地域ごとには課題が異なっており、特に西条とその周辺は全く状況が異なると改めて認識した。様々な施策がある中で、誰がどのようにまちづくりを進めていくのか、役割分担を明確化することでまちづくりが加速していくのではと思った。ありがとうございました。

(柏崎委員)

普段 PTA の仲間同士で交流しているが、色々な職業・年齢の方と話すことはないため、審議会での交流が大変勉強になった。他地域の方と話すと、東広島だからできる、東広島はいいね、と言われることが多い。人口も少しずつ増えており、未来は明るいと感じる。東広島市のこれからを考える計画に携われて良かった。

(奥本委員)

仕事づくりの部会に参加し、活発な議論が行われ、たくさん意見をいただき、ありがとうございました。全員で作った計画ではあるが前期基本計画では、観光はコロナの影響で飲食店は大きなダメージを受けたが、一方で半導体産業が大きな投資をもたらすなど、予想していないことが起こった。総合計画が良い意味で上振れすることを願っている。ありがとうございました。

(井林委員)

住民自治協議会の立場から出席した。自身が住んでいる地域では人口は増えている。答申案の中に地域活動の担い手不足の解決などと結びつけると書いてあるが、実際は人材の奪い合いが起こっており、どの団体も後継者問題がある。地域づくり推進課と協力し、力を貸していただきながら進めていきたい。市役所の担当者から直接回答をもらい、色々な分野の実情が知れて大変良かった。今後も市と連携して地域ボランティアとして活動していきたい。

(伊藤委員)

福祉は生活全般に全てにおいて人の生活に繋がっていると考えており、他の人の意見をもらいたいと思い、福祉とは別の仕事・活力づくりの部会に参加した。今回の総合計画では重点テーマの最初に“地域共生”が1番前に置かれおり、改めて“東広島市はすごいな”と思った。自分自身、地域共生を進めると真ん中で仕事をしているが、他部局・福祉以外のところとどのように繋がり、地域共生を進めていくかが核だと感じている。東広島市は県内においても行政と民間が連携しながら仕事ができていると感じていて、広島県・他県から見てもすごいと言われている。地域共生を地域づくりと絡めながら、両輪で動いている。5年後、この計画がもう一歩進んだ形で次期総合計画が立案することを期待している。

(石原委員)

他地域の人と交流ができ、大変勉強になった。大学2年の時に東広島市に来たため歴史は知らないが、西条が嫌で一度外に出て戻ってきた同僚がおり、昔は人間関係や地域の課題がたくさんあったと思うが、それを乗り越え計画を策定するところまで、歩んできていることに尊敬の念を持っている。しかしまだ課題はあり、審議会が出た意見はつまんで反映はされているが、圧縮ではなくピックアップする形になっていると感じている。色々な意見をうまくまとめるのは難しいとは思いますが、生涯学習を入れてほしいという意見に対して、幅広い意見をとった、という事務局から回答があったため、まとめられない状況・難しさはあるという感触を感じた。前期基本計画のことは知らないためあまり言えないが、部会では部会長がとても良くまとめてくださり、参加者が言いたい意見を言える環境にしてもらい、大変ありがたかった。1年間ありがとうございました。

(弓場委員)

部会・審議会の中では難しいなと感じたことも多々あったが、後期基本計画に沿って東広島市のまちづくりが進むことを大変楽しみにしている。自身も東広島市市民の一人であるため、平和な毎日で、住みやすいまちづくりになるよう、望んでいる。同じ東広島

市でも、中心地と過疎地域の環境に差があったりするが、今後は同じようにどちらの地域も良くなっていくことを望んでいる。ありがとうございました。

(森本委員)

審議会では緊張してしまいあまり意見が言えなかったが、若いからこそ意見をたくさんしないといけないことを理解し、発言ができるよう心掛けていた。おぼつかない意見もあったかと思うが、暖かい雰囲気で見守ってくれたため、意見が言いやすかった。小学校～大学まで東広島市で生活してきたが、これまで生活しにくいと感じたことはなかった。これからは子供たちが幸せに過ごせ、生きづらくないような市にしていきたい。1年間ありがとうございました。

(森尾委員)

前期計画策定議会から参加している。5年間の間に予期せぬ出来事が起こったり、前期基本計画の際に12年の計画を出していたが、やはり5年ごとの修正が必要だと感じている。令和12年時点の目標値に近づけるように、関係者の皆様には心から協力をお願いしたい。第6次総合計画もあると思われるが、今回より良い形で素案ができたため、次の審議会にうまくバトンタッチができたのではと感じている。ありがとうございました。

(村岡委員)

1年間楽しく部会・審議会に参加させていただいたことで、自身の勉強にもなった。アンケートが20数件という記録があったが、市民の声をより引き上げることができないか、まちづくりに関してよりいかに市民が自分事として主体として参加できるようにすることが必要なのか、残った疑問だった。次の総合計画を作ることになると思うが、どういうやり方が良いのか、よく検討をして、より良い計画にしてほしい。1年間ありがとうございました。

(樹野委員)

部会長・副会長をいう役割をして、どれだけ貢献できたか分からないが、1年間ありがとうございました。皆さまから色々な意見を出していただき、その積み重ねが市をより良い方向に繋がっていくと考えている。一方、今回の総合計画は八方良しという形で収まっているが次はそうはいかないのでは、と思っている。日本の出生数は現在既に70万人を割っており、2016年に推計した際は2046年に到達するといわれる数字だった。推計より20年早いペースで少子化をしているため、この市では人口が減っていないが、子育てなどの施策に注力する形に変えていかないといけないと個人的に思っている。ありがとうございました。

(田中会長)

1年間ありがとうございました。部会を含めるとかなりの議論をする機会をいただいた。その結果、頂戴した意見を全て反映できる訳ではなかったかもしれないが、一定の方向性は出せたと思っている。色々な委員の方から意見があったように、次期総合計画の作り方も含めて、課題はあったため次回に生かしていけたらと考えている。東広島市のまちづくりは当然市役所の皆様に頑張ってもらうこともあるが、市民も一定の役割を果たさなければならないと考えている。後期基本計画で描いている将来像に近づけるよう、まちづくりの協力をいただきたい。これをもって審議会を閉会とする。このあと市長への答申があるため、事務局に進行を戻す。

(事務局)

それでは、答申の伝達を行う。高垣市長、田中会長、樹野副会長、パネルの前へ移動をお願いします。

(答申の伝達、記念撮影)

(市長)

ただいま、田中会長、樹野副会長から、審議会の皆様の思いのこもった答申をいただきました。まずは昨年2月5日に本審議会を設置後、6回にわたる審議会、

また延べ6回にわたる部会において、総合計画の策定にかかる貴重なご意見をいただきました。ご指摘をいただいた6つの項目について、市政運営にあたって極めて重要なことと認識しており、これからのまちづくりにおいて、肝に銘じて進めたいと考えている。熱心に審議いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

本市においては、半導体関連産業の大型投資や大学など地域資源との共創による次世代学園都市構想の推進など、まだまだ大きな成長を続けていく可能性を秘めている。そうした中、審議会の皆さまから様々な意見をいただきながら作成した総合計画は、作ることが目的ではなく、これから施策として展開していくことが本当に重要なものである。施策の展開に当たっては、組織の枠にとらわれず、様々な分野を横断した施策の構築、推進に取組み、市民の皆さまが幸福感を感じ、住んでよかったと思えるまちとなるよう不断の努力を行ってまいらる。

委員の皆様におかれましては、それぞれの専門的な立場で、施策の推移を見守っていただき、夢や希望、そして幸せを感じられる東広島市の実現に向けて、ともに歩みを進めていただければ幸いです。甚だ簡単ではございますが、総合計画の策定に当たりましての、皆様へのお礼のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

(事務局)

これを持ちまして総合計画審議会に係る全ての行事が終了した。委員の皆さまには昨年の2月から長期間に渡りご審議をいただき、ありがとうございました。なお、本日撮影した写真については後日送付させていただきます。

皆様ありがとうございました。

以上